＜国税庁長官賞＞

輝かしい未来のために

学校法人石川義塾　石川義塾中学校　３年　菊地　未柚

私はこの夏休み、学校の社会科見学で国会議事堂を見学した。議事堂内では、参議員選挙で障害をもつ二人の国会議員が誕生したことによる議事堂内のバリアフリー工事の最中であった。私は、国の重要機関である国会議事堂内のバリアフリー化が未だに為されていなかったことに驚いた。そして最も衝撃を受けたのは、この改修工事に対する反対意見があるということだ。工事費用が税金で賄われることから、バリアフリー化の必要性、さらには障がい者が国会議員になること自体を問題視する意見もあるという。健常者も障がい者もフラットに生き、選択が出来る世の中であるべきなのに･･･。東京からの帰り道、私は母とのこんな会話を思い出していた。

母は、通信制の高校で教鞭をとっている。通信制の高校には、様々な事情を抱えた生徒も在籍している。学習障害や知的障害などの発達障害を持つ人、一見どこにでもいる学生に見えて家庭環境が複雑で苦しい思いをしてきた人、人生をやり直そうと頑張る五十代の人などなど。

「みんな個性的で楽しい。ま、個性が豊かすぎて大変だけどね。」

と、母は嬉しそうに笑っていた。どのような環境の下でも“学びたい”という各々の意思を尊重し、サポートしている母の姿が誇らしくも思えた。そしてもう一つ、学費についての話も聞いた。高校在学中の生徒に対して国が学費を支援する「就学支援金」があるという。支援金は全日制でも通信制でも大差なく、保護者の収入によって支援の金額が決まるそうだ。その支援によって助けられ、安心して学べている生徒は数多くいると母は話していた。

「就学支援金制度」の財源は、国民が納めている「税金」だ。税金とは身近なもので、「大人が働いて払うもの」では無い。十月から消費税が引き上げられ、軽減税率が導入されるにあたり、マスコミや新聞でも様々な意見や論争を耳にする。確かに買

い物をして、高い消費税が掛かれば損をした気持ちになるかもしれない。世の中には、自分の損得だけを考えて“税金逃れ”をしている人が少なくないと聞く。しかし、大切なことを見失ってはいないだろうか。私たちが支払った税金の先には、障がいを持っている人が生きやすい環境があり、学費が無く就学を諦めていた人がもう一度学び直せる環境がある。そして何より私たち一人ひとりの輝かしい未来がある。いかなる事情があっても、多くの笑顔や未来を創る大切さを誰にも忘れて欲しくはない。

　様々な立場の人たち同士が支え合い、人間らしく生きる権利を保障する「社会保障の充実」こそが、日本の未来であると私は確信している。来年、私も高校生になる。将来、納税者の一人として皆さんに恩返しが出来る人物に私はなりたい。